

## 輝達商事 株式会社

東京都豊島区高田 3-5-19  
ワコー高田馬場マンション 103号

クロマト分析装置や光分析装置、アルバック真空ポンプ、真空機器、日立ハイテックエレクトロニクス電子顕微鏡などの中古分析機器の買取事業を手掛ける『輝達商事』。移転、統廃合、廃業などに伴う分析機器の処分に困る企業の強い味方だ。中国出身の林社長は、約20年前に中国で分析機器のビジネスを立ち上げ、2016年に日本で同社をスタート。本日は志垣太郎氏が訪問。社長にお話を伺った。



営業本部長の金井大輔氏と買取サービス担当の永峰清幸氏と共に



代表取締役

林 輝

志垣 まずは林社長の歩みから。

林 中国・福建省の出身で、21歳の時に留学のために来日しました。その時は名古屋の学校で勉強して、一旦、帰国。28歳の時に、中国で分析機器メーカーの代理店を立ち上げました。同事業を続ける一方で、2016年に再び来日し、『輝達商事』を設立して今に至ります。

志垣 留学に続いてビジネスのために、日本を選ばれたのはなぜでしょう。

林 日本が大好きなんです。食べ物美味しいし(笑)、人は温かい。それに、ものづくりの技術は世界一ですからね。仕事柄、様々な国の製品を目にしますが、日本の製品が一番品質レベルが高い

## 分析機器のリサイクル・リユースで 食品・医薬品業界の安心・安全を支える

です。

志垣 製品、と言いますと、現在はどういったお仕事を？

林 食品や医薬品などの製造過程では、安全性を調べる検査に分析機器を使うのですが、その買い取りと中国への輸出を行っています。分析機器は新品だととても高価なんです。しかし、誰にとっても食べることは楽しみであり、生きていく上でとても大切なことでしょう。だから、日本でも中国でも国に関係なく、食の安全は非常に重要な問題なんです。食の安心・安全に役立ちたいとの思いから、日本の中古機器を買い取って輸出する事業を手掛けるようになりました。

志垣 日本製品がお役に立てるのは、日本人として嬉しいですね。

林 日本製は何より品質が良いですし、日本人は物を大切に使うので、中古でもとても綺麗なんです。アメリカやヨーロッパの中古品はほとんど使えない状態ですからね。それに、日本人は壊れているところがある場合、それを隠したりせずに正直に伝えてくれます。状態を示す書類も付けてくれるなど、嘘がない。そういった日本の文化が大好きなんです。

志垣 日本人にとって一般的でも世界各国では一般的でないこともあるんでしょ

うね。現在、中国への輸出が主体で？

林 はい。輸出先は中国が大半ですが、アメリカにも輸出しています。日本の中古品は品質が良い上に、値段も新品の10分の1ぐらいなのでどこの国からも人気がありますよ。

志垣 今後については、いかがでしょう。

林 当社の経営理念の1つに、「廃棄物ゼロ・資源循環から環境を守るゼロ・エミッション」があります。リサイクル・リユースされることは、売る側にも買う側にも喜ばれますし、これからは各国との間に立ち、架け橋として皆さんのお役に立ちたいですね。そして安心・安全な食品や医薬品を市場に届けるための一翼を担っていただければと思っています。

志垣 環境保全、社会貢献という観点からも意義のあるお仕事ですね。

(2017年10月取材)

中国と日本を行ったり来たりという忙しい日々を送っている林社長。中国に安心・安全な食品・医薬品を広げたいという強い信念が伝わってくる対談でした。



志垣太郎